

第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会

第 3 回競技運営専門委員会

会議資料



日時：平成 29 年 6 月 5 日（月）18：30～20：00
会場：滋賀県大津合同庁舎 7-A 会議室

目 次

1 委員名簿	1
2 報告事項	
第 79 回国民体育大会における実施競技について	2
(公財) 日本体育協会 国体委員会資料	3
3 審議事項 (1) 競技役員等養成状況について	4
(別表 2) 競技団体別実績【資格取得】	6
(別表 3) 競技団体別実績【資格維持・資質向上】	8
(参考)競技役員等養成基本計画	10
(参考)補助事業の概要	12
4 審議事項 (2) 第 79 回国民体育大会 公開競技実施基本方針(案)	14
(補足資料) 選定スケジュール	15
(補足資料) 公開競技種目説明	16
5 その他 資料 1 -(1)開催に向けた平成 29 年度の主な取組	18
(2)開催準備スケジュール	19
資料 2 -(1)各競技会場地の内定状況について	20
(2)会場地市町内定状況 配置図	23

競技運営専門委員会 委員

h29.4～(順不同:敬称略)

選出区分	機関・団体名および役職名	氏名
スポーツ 関係	公益財団法人滋賀県体育協会 競技力向上担当次長	(新) 中島 秀徳
	滋賀県障害者スポーツ協会 事務局員	伊勢坊 美喜
	一般財団法人滋賀陸上競技協会 理事	八木 佐知男
	滋賀県水泳連盟 理事長	澤 弘宣
	公益社団法人滋賀県サッカー協会 専務理事	前田 康一
	滋賀県テニス協会 国体強化委員会副委員長	菅原 万智子
	滋賀県バレーボール協会 理事長	浮田 豊史
	滋賀県バスケットボール協会 審判副委員長	(新) 加藤 善明
	滋賀県柔道連盟 理事	坂下 和子
	滋賀県弓道連盟 副会長	中村 傳一郎
学校関係	滋賀県中学校体育連盟 理事長	涌井 努
	滋賀県高等学校体育連盟 理事長	(新) 南 雄志
学識経験者	立命館大学スポーツ健康科学部 教授	岡本 直輝

第79回国民体育大会における実施競技について

- 正式競技・特別競技に区分される競技には、変更なし
- 平成29年4月3日付けで「山岳」の競技名が「スポーツクライミング」に変更
※平成31年茨城国体から適用
- 隔年実施競技については、第78回（2023年）から「銃剣道」が「ボクシング」に変更
※「銃剣道、クレー射撃」 → 「ボクシング、クレー射撃」
- 隔年実施競技の開催順については、平成29年6月に日体協において決定予定
- 各競技の種目、種別については、日体協において平成29年度に検討し、平成30年度に決定予定
※オリンピック対策・実行計画に基づき導入されている競技(H28～H34)>>
種目：オープンウォーター(水泳)、トランポリン(体操)、ビーチバレー(バレーボール)
種別：女子種別(水球、ボクシング、レスリング、ウェイトリフティング、自転車、ラグビーフットボール)
- 公開競技については、2競技（バウンドテニス、エアロビック）増加し、7競技に変更
※綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、
バウンドテニス、エアロビック

第 78 回大会（2023 年）～第 81 回大会（2026 年）における
各競技の実施区分等について

2017 年 3 月 2 日

1. 正式競技：計 41 競技 【注】下記※1 参照

(1) 毎年実施競技：計 39 競技

[本大会] 計 36 競技

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、バレーボール、体操、
バスケットボール、レスリング、セーリング、ウェイトリフティング、ハンドボール、
自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、
バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、山岳、カヌー、
アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

[冬季大会] 計 3 競技

スキー、スケート、アイスホッケー

(2) 隔年実施競技：計 2 競技

[本大会] 計 2 競技

ボクシング、クレー射撃

[冬季大会] 該当競技なし

2. 公開競技：計 7 競技 【注】下記※2 参照

[本大会] 計 7 競技

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、
バウンドテニス、エアロビック

[冬季大会] 該当競技なし

3. デモンストレーションスポーツ

上記「1. 正式競技」および「2. 公開競技」に該当しない競技団体の競技。

なお、日本体協加盟（準加盟）団体以外の競技についても、「国民体育大会デモンストレーションス
ポーツ実施基準」に基づき、開催都道府県競技団体が開催都道府県と調整の上で実施するこ
ができる。

4. 特別競技：計 1 競技

[本大会] 計 1 競技

高等学校野球

[冬季大会] 該当競技なし

※1 正式競技の実施区分のうち「開催地選択競技」については、第 3 期実施競技選定においては
休止とする。

※2 公開競技については、別に定める「国民体育大会公開競技実施基準」に基づき、当該中央競
技団体が主体となり、開催都道府県の合意を得た上で実施することができる。

審議事項 1

競技役員の養成状況について

1 平成 28 年度の取組状況

「第 79 回国民体育大会 競技役員等養成基本方針」および「同基本計画」に基づき、計画的に競技役員を養成するため、以下の取組を行った。

（1）実施内容

①県競技団体での実施内容

- ア 資格取得、資格維持および資質向上のため、中央競技団体等が主催する講習会・審査会等へ競技役員従事見込者を派遣
- イ 資格取得、資格維持および資質向上のため、県内講習会・審査会等を開催

②準備委員会での実施内容

- ア 国体開催競技団体担当者連絡会開催（事業の進め方説明）
- イ 競技団体が①の事業を実施するため必要とした経費について、当該団体に対して補助金を交付

（2）経過

平成 28 年度競技役員等養成事業に係る経過（平成 28 年度以前の内容も含む）

時 期	事務局	競技団体
平成 27 年 2 月 13 日	第 1 回競技運営専門委員会 競技役員等編成基本方針 競技役員等養成基本方針 および同基本計画	
平成 27 年 5 月	基礎調査実施	基礎調査書作成
平成 27 年 6～7 月	平成 28 年度事業に係る各競技団体ヒアリング	
平成 28 年 2 月 29 日	第 2 回競技運営専門委員会 審判員・要資格運営員養成計画 競技役員等養成事業方針	
平成 28 年 4 月 13・14 日	国体開催準備競技団体担当者連絡会開催	
平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月		養成事業の実施

(3) 平成 28 年度の養成実績（平成 29 年 4 月末現在）

	当初計画①	実績②	差引 ②-①	実施率 ②/①
資格取得	154 (人)	160 (人) (72 人)	6 (人) (▲82 人)	103.9% (46.8%)
資格維持 資質向上	880 (人)	861 (人) (330 人)	▲19 (人) (▲550 人)	97.8% (37.5%)

当初計画①：平成 27 年度実施のヒアリング結果に基づく人数

() 内の数字は「競技役員等養成事業補助金」対象事業での養成人数

2 評価と今後の対応

平成 28 年度養成実績を見ると、各競技団体にご尽力いただき、全体としてはほぼ計画どおりの実施率となったものの、競技別にみると、必ずしも計画どおりの実績が上がっていなない状況がうかがえる。

また、競技役員等養成事業補助金の交付を受けずに、競技団体独自で養成を行っている事例もみられる。

平成 29 年度においては、引き続き国体開催時に必要な資格取得者の補助事業を活用した養成が円滑に進むよう、養成計画の進行管理を行うとともに、改めて各団体に対しアンケートやヒアリングを行い、年度途中における追加募集の実施など事業の執行方法を見直すことで補助金の有効活用を促す。

併せて、各団体における事業の進捗状況を鑑み、必要に応じて開催年までの年次養成計画の見直しを行う。

＜別表2+＞

第79回国民体育大会 審判員・要資格運営員養成年次計画および実績 【資格取得】

<別表2+>

**第79回国民体育大会 審判員・要資格運営員養成年次計画および実績
【資格取得】**

No.	内訳 競技名	養成 目標数	上段:年次養成計画数(人) 中段:養成実績数(人) 下段:事業を活用した養成実績数(人)									延べ養成数	(%)
			H28 (8年前)	H29 (7年前)	H30 (6年前)	H31 (5年前)	H32 (4年前)	H33 (3年前)	H34 (2年前)	H35 (1年前)	H36 (開催年)		
22	柔道	20	7 0 0	7 0 0	7 0 0	6 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	27 0 0	
23	ソフトボール	68	2 0 0	2 0 0	3 0 0	33 0 0	3 0 0	25 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	68 0 0	
24	バドミントン	45	2 4 4	3 4 4	4 4 4	6 6 6	10 10 10	11 11 11	11 11 11	4 4 4	0 0 0	51 4 4	
25	弓道	25	0 0 0	8 0 0	8 0 0	8 0 0	7 0 0	6 0 0	4 0 0	3 0 0	0 0 0	44 0 0	
26	ライフル射撃	29	4 0 0	5 0 0	5 0 0	5 0 0	5 0 0	5 0 0	6 0 0	0 0 0	0 0 0	35 0 0	
27	剣道	-	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
28	ラグビーフットボール	9	2 5 5	2 5 5	3 5 5	2 5 5	2 5 5	3 5 5	2 5 5	2 5 5	2 5 5	20 5 5	
29	山岳	89	0 0 0	4 0 0	4 0 0	72 0 0	3 0 0	4 0 0	4 0 0	1 0 0	0 0 0	92 0 0	
30	カヌー	98	0 0 0	4 0 0	4 0 0	4 0 0	14 0 0	24 0 0	39 0 0	5 0 0	98 0 0		
31	アーチェリー	21	0 6 6	9 6 6	0 6 6	6 6 6	0 6 6	3 6 6	11 6 6	0 6 6	0 6 6	29 6 6	
32	空手道	6	0 0 0	0 0 0	1 0 0	1 0 0	0 0 0	1 0 0	3 0 0	2 0 0	2 0 0	10 0 0	
33	なぎなた	4	0 1 0	2 1 0	0 1 0	2 1 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 1 0	4 1 0	
34	ボウリング	17	2 1 0	4 1 0	4 1 0	4 1 0	3 1 0	2 1 0	2 1 0	3 1 0	0 1 0	24 1 0	
35	ゴルフ	-	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
36	トライアスロン	12	6 16 0	4 16 0	3 16 0	3 16 0	8 16 0	3 16 0	0 16 0	1 0 0	0 16 0	0 57.1 0	
37	銃剣道	6	2 0 0	2 0 0	2 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	6 0 0	
38	クレー射撃	12	0 4 0	6 4 0	3 4 0	9 4 0	3 4 0	3 4 0	0 4 0	0 4 0	0 4 0	24 4 0	
39	高校野球	-	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	
養成目標数合計		1,434	154	225	285	369	271	333	319	125	19	2,100	
実績数合計			160	0	0	0	0	0	0	0	0	160	7.6
事業活用養成人数				72								72	

年次別実績% 103.9 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

※養成目標および年次養成計画欄に「-」が記入されている競技は、競技役員等養成の必要がないことを示す。(現状充足、中央競技団体からの派遣で行)

〈別表3+〉

第79回国民体育大会 審判員・要資格運営員養成年次計画および実績 【資格維持・資質向上】

第79回国民体育大会 審判員・要資格運営員養成年次計画および実績
【資格維持・資質向上】

No.	内訳	上段:年次計画数(人) 中段:実績数(人) 下段:事業を活用した実績数(人)										延べ人数		
		競技名		H28 (8年前)	H29 (7年前)	H30 (6年前)	H31 (5年前)	H32 (4年前)	H33 (3年前)	H34 (2年前)	H35 (1年前)	H36 (開催年)	実績 (累計)	(%)
		H28 (8年前)	H29 (7年前)	H30 (6年前)	H31 (5年前)	H32 (4年前)	H33 (3年前)	H34 (2年前)	H35 (1年前)	H36 (開催年)				
22	柔道	33	38	43	49	55	55	55	55	55	438			
		6									6	1.4		
		6									6			
23	ソフトボール	32	34	36	39	72	75	100	100	100	588			
		55									55	9.4		
		5									5			
24	バドミントン	5	7	9	12	16	25	35	46	50	205			
		0									0	0.0		
		0									0			
25	弓道	39	33	35	37	40	43	45	48	51	371			
		34									34	9.2		
		34									34			
26	ライフル射撃	11	14	18	22	26	30	33	33	33	220			
		0									0	0.0		
		0									0			
27	剣道	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
28	ラグビーフットボール	13	14	14	16	17	17	19	20	21	151			
		9									9	6.0		
		9									9			
29	山 岳	3	3	7	11	83	85	88	91	92	463			
		0									0	0.0		
		0									0			
30	カヌー	26	29	32	35	38	41	54	77	116	448			
		0									0	0.0		
		0									0			
31	アーチェリー	7	4	13	13	19	16	19	30	30	151			
		4									4	2.6		
		4									4			
32	空手道	4	4	4	5	6	6	5	6	8	48			
		32									32	66.7		
		32									32			
33	なぎなた	0	0	2	2	4	4	4	4	4	24			
		1									1	4.2		
		0									0			
34	ボウリング	7	7	9	11	14	17	19	21	24	129			
		7									7	5.4		
		0									0			
35	ゴルフ	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
36	トライアスロン	24	28	31	34	31	38	41	40	41	308			
		0									0	0.0		
		0									0			
37	銃剣道	0	2	4	6	6	6	6	6	6	42			
		0									0	0.0		
		0									0			
38	クレー射撃	0	0	6	3	9	9	12	12	12	63			
		5									5	7.9		
		0									0			
39	高校野球	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
目標数合計		880	956	1,076	1,251	1,503	1,673	1,916	2,191	2,310	13,756			
実績数合計		861	0	0	0	0	0	0	0	0	861	6.3		
事業活用養成人数		330									330			
実績%		97.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

*年次養成計画欄に「-」が記入されている競技は、競技役員等養成の必要がないことを示す。(現状充足、中央競技団体からの派遣で行う等)

第 79 回国民体育大会 競技役員等養成基本計画

第79回国民体育大会の競技運営にあたる競技役員等の養成については、「第79回国民体育大会競技役員等編成基本方針」および「第79回国民体育大会競技役員等養成基本方針」に基づき、「第79回国民体育大会競技役員等養成基本計画」を作成し、計画的かつ円滑な事業の推進を図る。

1 養成対象

競技役員（審判員・運営員）、競技補助員、競技会係員および競技会補助員を養成の対象とする。

2 業務分担

- (1) 競技役員（審判員・運営員）および競技補助員については、競技団体がその養成を行う。
- (2) 競技会係員および競技会補助員については、会場地市町が関係団体と十分協議し、その養成を行う。
- (3) 県は、競技団体および会場地市町と連携を図り、競技役員等の養成計画の推進に努める。

3 養成方法

- (1) 競技役員（審判員・運営員）の養成方法については、次のとおりとする。
 - ①県内講師による県内講習会
 - ②中央およびブロックの競技団体講師による県内講習会
 - ③中央およびブロックの競技団体主催の講習会への派遣
 - ④中央およびブロックの競技団体主催の大会への派遣
- (2) 競技補助員、競技会係員および競技会補助員の養成方法については、次のとおりとする。
 - ①県内講師による県内講習会
 - ②中央およびブロックの競技団体講師による県内講習会

4 養成スケジュール

区分／養成方法／養成団体		年度 開催前年		H28 8年前	H29 7年前	H30 6年前	H31 5年前	H32 4年前	H33 3年前	H34 2年前	H35 1年前	H36 開催年
		審判員	中央講習会等派遣 県内講習会	競技 団体	資格取得、資格維持、資質向上							
競技役員	要資格 運営員	中央講習会等派遣 県内講習会	競技 団体	資格取得、資格維持、資質向上								
	その他の 運営員	中央講習会等派遣 県内講習会	競技 団体									養成、資質向上
	競技補助員	県内講習会	競技 団体									養成、資質向上
競技会係員		県内講習会	会場地 市町									養成
競技会補助員		県内講習会	会場地 市町									養成

5 養成計画

審判員および資格が必要な運営員の具体的な養成計画は、各競技団体が別途作成することとし、事業の進捗状況をふまえて毎年見直しを行う。

第79回国民体育大会競技役員等養成に係る補助事業の概要

(1) 目的

第79回国民体育大会の各競技会運営に直接携わる審判員、運営員、競技補助員（以下「競技役員等」という。）の養成（資格取得、資格維持、資質向上）を図るため、滋賀県開催準備委員会が定める「第79回国民体育大会競技役員等養成基本計画」に基づき、県内競技団体（以下「競技団体」という）が主体となって行う養成事業について、予算の範囲内で補助金を交付するものです。

＜養成の種類＞

資格取得	新たに資格を取得すること。下位級から上位級の資格を取得すること。
資格維持	資格取得後、有効期間内に講習会等の受講により資格継続の認定を受けること。
資質向上	大会等において審判等の実務経験を積むことにより、技能向上を図ること。

(2) 補助対象

①補助対象競技

第79回国民体育大会の正式競技（冬季競技を除く）および特別競技。

②補助対象者

第79回国民体育大会に競技役員等として従事する見込みの者のうち、競技団体が資格取得・資格維持・資質向上を図る必要があると認めた者。第79回国民体育大会時に審判員等として従事する見込みがない方は対象外となります。

③補助対象人数

補助対象人数の算出については、競技団体に依頼した（平成27年3月）「第79回国民体育大会競技役員等に関する基礎調査」の回答に基づき算出。第79回国民体育大会を開催するにあたって必要な人数のうち、現在の有資格者で国体開催時に従事可能な人数および平成27年4月1日現在の有資格者数では不足すると算定された人数が、補助対象となります。

＜第79回国民体育大会競技役員等養成基本計画（抜粋）＞

区分／養成方法／養成団体			年度 開催前年	H28 8年前	H29 7年前	H30 6年前	H31 5年前	H32 4年前	H33 3年前	H34 2年前	H35 1年前	H36 開催年
競 技 役 員	審判員	中央講習会等派遣 県内講習会	競技 団体	資格取得、資格維持、資質向上								
	要資格 運営員	中央講習会等派遣 県内講習会	競技 団体	資格取得、資格維持、資質向上								
	その他の 運営員	中央講習会等派遣 県内講習会	競技 団体				養成、資質向上					
	競技補助員	県内講習会	競技 団体				養成、資質向上					

※当面は、資格を必要とする審判員、運営員（上記太枠部分）を対象とします。

＜補助対象人数の算出（例）＞

A	B	C	D = B - C	E = A - D	E × 1.3
第79回国体で必要な有資格者数 (県内必要数)	H27.4.1現在の 有資格者数	Bのうち、第79 回国体で従事 できない人数	第79回国体で 従事可能な 有資格者数	有資格者 不足数	養成目標数
10人	20人	12人	8人	2人	3人 (≈2.6人)

※補助対象となるのは、第79回国体で従事可能な有資格者数と養成目標数として算定された人数（上記太枠部分）です。

④補助対象事業

◆中央講習会等派遣事業

審判員および運営員の資格取得・資格維持・資質向上を図るため、第79回国民体育大会に競技役員等として従事する見込みの者のうち、競技団体が必要と認めた者を中央(ブロック)競技団体が主催する講習会・審査会や全国(ブロック)大会等へ派遣する事業。

◆県内講習会等開催事業

審判員および運営員の資格取得・資格維持・資質向上を図るため、中央(ブロックまたは県内)から講師を招き、第79回国民体育大会に競技役員等として従事する見込みの者のうち、競技団体が必要と認めた者を対象として講習会や審査会等を開催する事業。

(3) 補助対象経費

◆中央講習会等派遣事業

受講者…交通費、宿泊費(2泊3日上限)、傷害保険料

◆県内講習会等開催事業

講師…謝金、交通費、宿泊費(県外講師のみ)、昼食代、傷害保険料

受講者…傷害保険料

その他…消耗品費(文房具等)、印刷製本費(講習会資料)、会場使用料

第79回国民体育大会 公開競技実施基本方針（案）

第79回国民体育大会（以下「大会」という。）において実施する公開競技は、公益財団法人日本体育協会の定める「国民体育大会開催基準要項、同細則」および「国民体育大会公開競技実施基準」ならびに「第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会開催基本方針」に基づき、次の方針により実施する。

1 実施目的

- (1) 大会を契機として、競技を普及するとともにスポーツを推進し、生涯スポーツ社会の実現につなげる。
- (2) 県民一人ひとりが多くのスポーツに触れる機会を増やすことにより、健康づくりへの関心を高め、「滋賀をスポーツで元気にする大会」の実現を目指す。

2 実施競技の選択

実施競技は、次の事項について総合的に検討し、綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビックの7競技から選択する。

- (1) 競技を実施することにより、大会終了後においても、県内での当該競技の普及・推進が図られること。
- (2) 当該県競技団体の組織が整備されており、競技運営能力があること。
- (3) 当該中央・県競技団体の開催意欲とともに、市町の開催希望があること。

3 会場地市町の選定

会場地は、「第79回国民体育大会会場地市町選定基本方針」に基づき、次の事項について総合的に検討し、選定する。

- (1) 正式競技と特別競技を開催しない市町を優先とし、市町と競技団体の意向が合致すること。
- (2) 実施する公開競技の普及・推進が図られる市町であること。
- (3) 実施する公開競技の開催に必要な競技施設を有する市町であること。

4 実施時期と実施日数

- (1) 実施時期は平成36年4月1日から閉会までとする。ただし、大会総合開会式・閉会式当日は除くものとする。
- (2) 実施日数は、4日間を上限とする。

5 業務分担および経費負担

- (1) 競技会の準備および開催運営に係る業務（関連業務全般含む。）は、当該中央競技団体が主導で行うものとし、その経費については、当該中央競技団体の負担とする。
- (2) 参加料、参加者旅費、当該競技会に関する経費については、原則として競技会参加者の自己負担とする。

6 その他

競技会の実施方法およびその他の必要な事項は別に定める。

**第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会
《公開競技》選定スケジュール(案)**

年度	県準備委員会
H29 (7年前)	<p><u>6月 第3回競技運営専門委員会</u> (基本方針[案]の決定)</p> <p><u>7月 常任委員会</u> (基本方針の決定)</p> <p>11月 市町ヒアリング (正式競技を開催しない市町)</p> <p>11月～12月 (県)競技団体との打ち合わせ</p> <p>12月～1月 (中央)競技団体との打ち合わせ</p> <p>2月 市町・(県)競技団体担当者連絡会議</p> <p>2月～ 意向調査(市町・競技団体)</p>
H30 (6年前)	<p>～4月 意向調査</p> <p>5月～9月 (県)競技団体・開催希望市町のヒアリング・調整作業</p> <p>10月 内諾確認(市町・競技団体)</p> <p><u>11月 総務企画専門委員会</u> (内定案“その①”の決定)</p> <p>11月～1月 内定案(追加)に向けての調整</p> <p>2月 内諾確認(市町・競技団体)</p> <p><u>3月 総務企画専門委員会</u> (内定案“その②”の決定)</p>
H31 (5年前)	<p><u>5月～6月 常任委員会</u> (会場地決定)</p> <p>6月 (公財)日本体育協会への開催申請書提出</p>

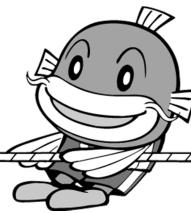
公開競技種目とは・・・(7種目)

綱引き (選手450~600人、成年男女・少年男女・成年男女混合)

運動会などいろいろな場面で一本の綱を双方で引き合う競技です。
綱引き競技はアウトドアとインドアがありますが、日本ではインドアが主流で、長さ33m幅0.9mのレーンの上で8名の競技者が引き合います。

勝敗は時間無制限で、4m引いた方が勝ちというわかりやすい競技です。
競技は競技者8人の合計体重によるクラス分けで行います。

運動会の綱引きと大きく違うところは立った姿勢からスタートするところで、スタート時の無理な体勢移動が無いので年齢に関係なくいつまでも綱引きを楽しむ事が出来ます。



ゲートボール (選手256人、男子・女子)

T字型スティックでボールを打ち、3つのゲートを通過させ、コート中央のゴールポールに早く当て、上garることを競う競技です。

競技は、1チーム5人による対抗戦により行われ、試合時間は30分です。先攻チームは自分と同じ番号のついた赤ボール(奇数番号)を、後攻チームも同じ番号のついた白いボール(偶数番号)を1番の選手から順番に打っていきます。

スタートエリアから第1ゲートに向かって打ち、第1ゲート、第2ゲート、第3ゲートを通過させ、最後にゴールポールに当てるごとに、その選手は上がりになります。先に5人全員が上がったチームが勝ちとなり、30分間で勝ち負け決しない場合は、それぞれのチームの総得点で勝敗を決めます。

得点は第1ゲート、第2ゲート、第3ゲートの通過に成功するとそれぞれ1点ずつ、合わせて3点、そしてゴールポールに当てるごとに2点の、合計5点が選手1人の最高得点になります。したがって、チーム5人全員が上がると25点となり、これをパーフェクトゲームといいます

パワーリフティング (選手105~145人、成年男女)

人間の基本的運動要素「立つ」「押す」「引く」のウェイトトレーニングを競技化したスポーツです。

「スクワット」「ベンチプレス」「デッドリフト」の3種目で重量を競い合い、そのトータル重量で順位を決定します。

「スクワット」はバーベルを肩に担ぎ、しゃがんでから立ち上ります。

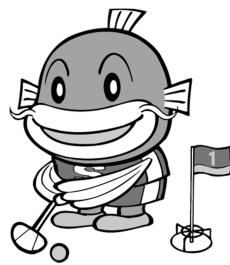
「ベンチプレス」はベンチ台に仰向けになり、胸の上でバーベルを持ち上げます。「デッドリフト」は床に置かれたバーベルを垂直に引き上げ、足と背中が伸びるまで持ち上げます。

シンプルな競技であるがために、いかに筋肉がついているのかよりも、純粋にパワーとスピードが要求されるのが、この競技の特徴といえます。



グラウンド・ゴルフ (選手570～600人、男女混成)

ゴルフをアレンジした軽スポーツとして誕生しました。専用のクラブ、ボール、ホールポスト、スタートマットを使用してゴルフのようにボールをクラブで打ちホールポストにホールインするまでの打数を競います。運動場や河川敷、専用コースなどで行います。



武術太極拳 (選手470人、成年男女・少年男女・シニア男女)

伸びやかで大きく、ゆったりとした動作が特徴の「太極拳」と、姿勢や動作が大きくスピードがあり、躍动感が多く含まれ、優美で活動的なことが特徴の「長拳」で競いあう競技です。日本では、太極拳と各種の中国武術、中国拳法を総称して、「武術太極拳」の名称で普及が進められています。武術としての姿勢や動作の正しさ、動作の均衡と力の運用の正しさ等を採点し、勝敗を決します。



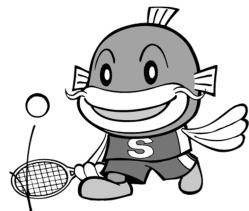
バウンドテニス

一言でいうと狭いスペースでできるテニスです。「バウンド」とはボールがよく“弾む”こと（バウンド）と“限られたスペース”でできること（バウンダー）に由来しています。

コートの広さが3m×10m、ネットの高さが50cmと定められ、テニスコートの1/6の面積でプレイができ、場所を選ばず楽しめることが何よりも大きな特色となっています。

シングルスとダブルス、大会によっては混合ダブルスもあります。ダブルスは必ず4人が交互にボールを打たなくてはなりません。4ポイント先取の9ゲームマッチ（先に5ゲーム取った方が勝ち）

また、BTラリー戦という種目があり、1チーム6人でネットを挟んで3人ずつ分かれ順番にボールを打ちます。1分間に何回ラリーが続くかを3回行い、その合計で他のコートと競い合います。



エアロビック

エアロビックダンスや、エクササイズを技術的に体系化して「スポーツ」に発展したものです。競技には国際大会につながる公式競技のほか普及を目的としたチーム競技、フライ特技があります。部門や年齢別に7m四方と10m四方の競技エリアを使用し、定められた競技時間の中でエアロビック動作や、エレメントと呼ばれる難度別動作を組み合わせた演技（ルーティン）を行います。これを「難度」「実施」「芸術」の観点から審判員が採点し、その総合点で優劣を競います。競技部門としては、シングル、ミックスペア、トリオ、グループ、エアロビックダンス、エンジョイチーム、フライ特技の7種目あります。



2024 滋賀国体・全国障害者スポーツ大会

～開催に向けた平成29年度の主な取組～

国体・全スポ開催準備委員会

負担金 28,300千円

(1) 各競技会場地の選定

- ◆正式競技・特別競技については、平成29年3月開催の「総務企画専門委員会」において9競技、7月開催の同専門委員会で追加内定案を決定のうえ、7月下旬開催予定の「常任委員会」に諮り決定。
- ◆平成30年に実施予定の中央競技団体正規視察までに、すべての競技会場地を内定できるよう調整を継続。
- ◆公開競技や全国障害者スポーツ大会正式競技の会場地選定に着手。

(2) 開催準備委員会における大会準備

①「開催基本構想」の検討着手

- ◆「総務企画専門委員会」において、平成31年の大会開催内定に向け策定する「開催基本構想」の検討に着手。

②競技役員等の養成

- ◆平成27年8月に決定した「競技役員等養成基本計画」に基づき、審判員等の資格が必要な役員等の養成を行う競技団体に対し補助金を交付。

③宿泊・衛生/輸送・交通にかかる検討着手

- ◆「宿泊・衛生専門委員会」と「輸送・交通専門委員会」を設置し、大会開催時の配宿計画や衛生対策、輸送計画や交通規制等の検討に着手。

④全国障害者スポーツ大会の準備

- ◆「全国障害者スポーツ大会専門委員会」において、国体・全スポの一体感ある開催に向けた具体的方策を検討するとともに、会場地の選定に向けて議論。

(3) 開催機運醸成に向けた取組

①国体・全スポマスコットキャラクターの決定・大会専用HPの開設

- ◆平成28年度から選定作業を進めていたマスコットキャラクター(キャッフィー+関連キャラクター)の決定を行い、キャラクターを活用した大会広報・啓発を実践。
- ◆大会専用ホームページを開設し、インターネットを通じ効果的に情報を発信。

②募金活動の展開

- ◆寄附を通じて「滋賀のスポーツを応援」いただけるよう、県民・企業の皆さんに対して積極的に呼びかけを実施。
- ◆いただいた寄附金は、当面「滋賀県競技力向上対策本部」で実施する、スポーツ選手の発掘、育成および強化に要する経費や、(仮称)彦根総合運動公園・新県立体育館などの施設整備に要する経費に充当。
- ◆新たにクラウドファンディングによる寄附募集の導入を検討。

③子ども・若者参画特別委員会(ジュニア・ユースチーム第4期)活動の展開

- ◆他県にはない『滋賀オリジナル』の取組として、小学生～大学生世代の子どもや若者で構成する「ジュニア・ユースチーム」が、その柔軟な視点や発想を活かし、国体・全スポはもとより、広く県のスポーツ振興に関する課題等について調査研究を実施。

滋賀県

市町競技施設整備費補助の開始

100,000千円

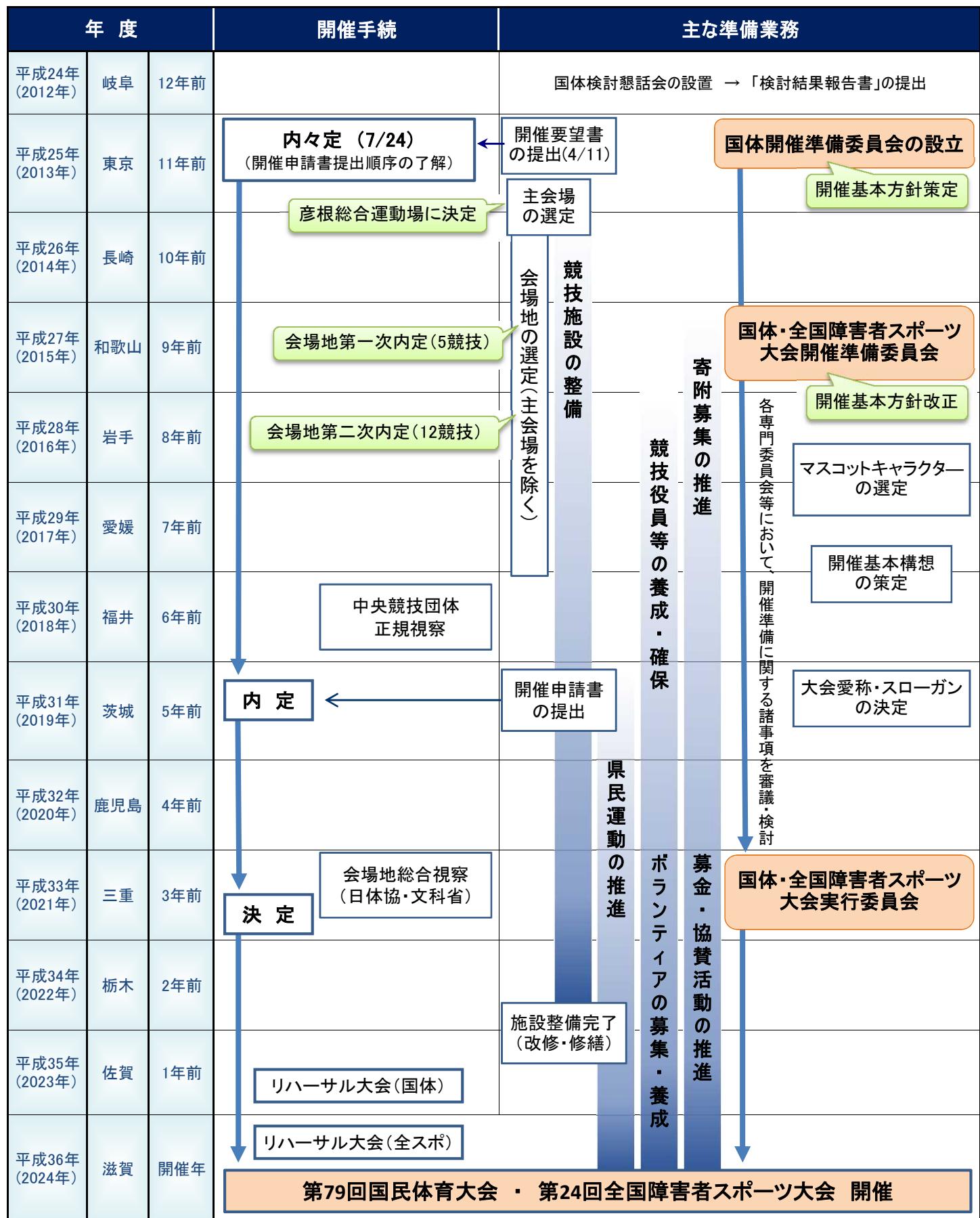
- ◆競技会場となる市町立施設の整備に要する経費に対する補助を開始。

基金の積立て 等

26,044千円

- ◆「国民体育大会・全国障害者スポーツ大会運営等基金」に、企業や県民の皆さんからいただいた寄附金を積立てるとともに、一部を取り崩し、平成29年度に実施する競技力向上対策事業に充当。(H28年度末残高:約3,596百万円、H29年度事業充当 230千円)

第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会 開催準備スケジュール



各競技会場地の内定状況について

○内定済み(第1次、第2次) … 18競技(正式競技17、特別競技1)

○第3次内定(その1)(案) … 9競技
(ホッケー、ハンドボール、軟式野球、弓道、スポーツクライミング、
フェンシング、銃剣道、なぎなた、ゴルフ)

No	競技名	第79回国体 会場地				(参考) びわこ国体会場地	
		内定時期	市町名	施設名	種別		
1	陸上競技	H26.5.26	彦根市	(仮称)彦根総合運動公園陸上競技場	全種別	大津市	
2	水泳	競泳				彦根市	
		シンクロ				—	
		水球				長浜市	
		飛込				彦根市	
3	サッカー	②H28.8.3	東近江市	布引運動公園陸上競技場 京セラ株式会社滋賀八日市工場 総合グラウンド	成年男	水口町、甲西町	
			大津市	皇子山総合運動公園陸上競技 場 伊香立公園芝生グラウンド びわこ成蹊スポーツ大学陸上 フィールド	女子		
			守山市	野洲川歴史公園サッカー場 (ビッグレイク)	少年男		
4	テニス	②H28.8.3	大津市	大石緑地スポーツ村テニスコート	全種別	彦根市	
5	ボート	②H28.8.3	大津市	滋賀県立琵琶湖漕艇場	全種別	大津市	
6	ホッケー	③(その1)	米原市	県立伊吹運動場、米原市伊吹第 1グラウンド	全種別	伊吹町	
7	ボクシング (隔年開催)					能登川町	
8	バレーボール	②H28.8.3	草津市	草津市立総合体育館 野村公園体育館	成年男 成年女	近江八幡市、守山市	
			近江八幡市	近江八幡市立運動公園体育館	少年男		
			守山市	守山市民体育館	少年女		
9	体操	競技	②H28.8.3	大津市	新県立体育館	全種別	栗東町
		新体操	②H28.8.3	大津市	新県立体育館	少年女	—
10	バスケットボール	②H28.8.3	大津市	新県立体育館	成年男 少年男	大津市	
			野洲市	野洲市総合体育館	成年女		
			草津市	野村公園体育館	少年女		

No	競技名	第79回国体 会場地				(参考) びわこ国体会場地
		内定時期	市町名	施設名	種別	
11	レスリング	②H28.8.3	栗東市	栗東市民体育館	全種別	甲賀町、信楽町
12	セーリング					大津市
13	ウエイトリフティング					安曇川町
14	ハンドボール	③(その1)	彦根市	(仮称)彦根市新市民体育センター 県立彦根東高等学校体育館 県立彦根工業高等学校体育館 彦総グリーンアリーナ(彦根総合高校 体育館)	全種別	彦根市
			近江八幡市	近江八幡市立運動公園体育館	少年男 少年女	
15	自転車	トラック				大津市
		ロード				八日市市、蒲生町、日野町、 永源寺町、愛東町、湖東町
16	ソフトテニス	①H27.8.31	長浜市	長浜市民庭球場	全種別	長浜市
17	卓球	②H28.8.3	野洲市	野洲市総合体育館	全種別	草津市
18	軟式野球	③(その1)	近江八幡市	近江八幡市立運動公園野球場	成年男	近江八幡市、守山市
			草津市	草津グリーンスタジアム		
			守山市	守山市民球場		
			甲賀市	甲賀市民スタジアム		
			東近江市	ひばり公園湖東スタジアム		
			日野町	大谷公園野球場		
19	相撲	①H27.8.31	長浜市	長浜バイオ大学ドーム (滋賀県立長浜ドーム)	全種別	日野町
20	馬術					栗東町
21	柔道	②H28.8.3	長浜市	木之本運動広場体育館	全種別	木之本町
22	ソフトボール	②H28.8.3	東近江市	布引運動公園多目的グラウンド	成年男	草津市、八日市市
			高島市	今津総合運動公園第2グラウンド	成年女	
			草津市	野村公園グラウンド	少年男	
			守山市	守山市民運動公園ソフトボール場・ 市民スポーツ広場	少年女	
23	フェンシング	③(その1)	大津市	ウカルちゃんアリーナ (滋賀県立体育館)	全種別	五個荘町
24	バドミントン	②H28.8.3	大津市	新県立体育館	全種別	大津市
25	弓道	③(その1)	彦根市	(仮称)彦根市新市民体育センター	全種別	長浜市
26	ライフル 射撃	センター・ファイア・ピストル センター・ファイア・ピストル以外				大津市
27	剣道		①H27.8.31	湖南市	湖南市総合体育館	

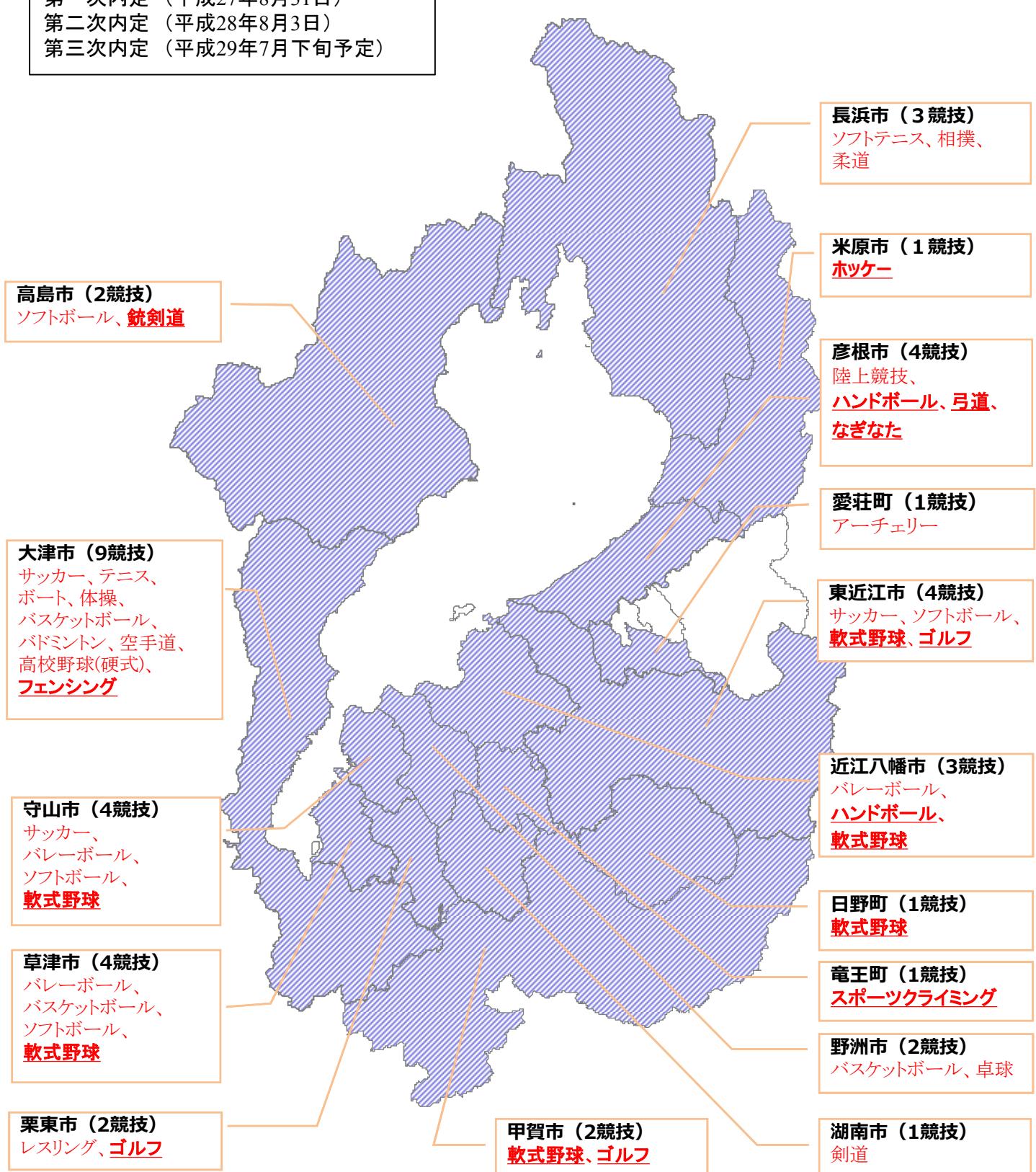
No	競技名		第79回国体 会場地				(参考) びわこ国体会場地	
			内定時期	市町名	施設名	種別		
28	スポーツ クライミ ング		リード ボルダリング	③(その1)	竜王町	竜王町総合運動公園	全種別	高島町、志賀町、 朽木村
29	ラグビーフットボール							野洲町
30	カヌー	スプリント スラローム・ ワイルドウォーター						大津市
31		アーチェリー		①H27.8.31	愛荘町	愛荘町スポーツセンター 秦荘グラウンド	全種別	
32	空手道		②H28.8.3	大津市	ウカルちゃんアリーナ (滋賀県立体育館)	全種別	湖東町	
33	銃剣道		③(その1)	高島市	新旭体育館	全種別	今津町	
34	クレー射撃 (隔年開催)						信楽町	
35	なぎなた		③(その1)	彦根市	パナソニック株式会社アプライア ンス社彦根工場多目的ホール	全種別	—	
36	ボウリング						—	
37	ゴルフ		③(その1)	栗東市 甲賀市 東近江市	琵琶湖カントリー倶楽部 ベアズパウ ジャパン カントリー クラブ 名神八日市カントリー倶楽部	成年男 少年男 女子	—	
38	トライアスロン						—	
39	高等学校 野球	硬式	①H27.8.31	大津市	皇子山総合運動公園野球場	—	大津市	
		軟式					彦根市	

注) 1 開催予定施設は、現時点で競技を開催できる能力を有する施設として判断したものであり、今後、中央競技団体観察の結果等により、会場の追加・変更等が生じる場合がある。

会場地市町内定状況 配置図

資料2-(2)

主会場決定（平成26年5月26日）
第一次内定（平成27年8月31日）
第二次内定（平成28年8月3日）
第三次内定（平成29年7月下旬予定）



※ゴシック体で下線は、第3次内定(その1)(案)を表す。